

## 令和6年度第4回みやぎ観光振興会議仙台圏域会議 委員等発言要旨

日時：令和7年1月15日（水）午後2時から

場所：フォレスト仙台2階 第1・2会議室

～議事1について事務局（観光戦略課 川部課長）より説明～

### 東海林委員

- 数値目標については宿泊者数の増減に基づくものが示されている。しかし、当地域のような沿岸部では宿泊施設が震災後にあまり増減しておらず、宿泊数の変動が評価に適さない地域もあると思うので、評価の際は県全体の評価だけではなく、地域ごとに異なる観光の特徴の評価も考慮する必要があるのではないかと。
- 市町村ごとの観光指標のデータはどのように収集し、どのように評価しているのか知りたい。

### 事務局（川部課長）

- 示しているのはプラン上の数値目標であり、この数値だけでは評価しきれない部分がある。そのようなことを踏まえ、様々な指標を取り入れて分析できる形に整理している。観光成果指標ということで、現行プランの指標を取り入れ、観光成果を多角的に分析できるような形で整理している。
- 宿泊者数だけでなく、観光客の入り込み数についても指標を盛り込んでおり、市町村ごとの数値も把握しているため、総合的に議論ができるように、必要に応じて数値を提供していきたい。

### 富谷委員

- 観光消費額がどのようなデータを基に算出されているのかを教えてください。

### 事務局（川部課長）

- 観光客が旅行される際の宿泊代や飲食代、買い物をした際の消費、そのようなものを積み上げて、金額を算出している。

### 太見委員

- 観光消費額の79,000円という数字がどのように算出されたのか、実際にはもっと高いのではないかとというのが率直な意見。特に、自身が経験した富裕層インバウンドの1旅行の予算が80万円から90万円であり、現在提示されている観光消費額はもっと高くてもいいのではないかと。
- 円安や物価高の影響で人件費が高騰していると感じており、青森で訪れた飲食店では、2年前と現在では3,000円のもものが9,000円に値上がりしていた。それでも外国人観光客で賑わっており、お店の従業員は全員外国人で、日本人労働者がいない状況だった。
- 若者が賃金の高い首都圏に流出している状況。外国人観光客が増加しても、それを受け入れる日本側の人材が不足している状況があり、このままでは観光客を受け入れる体制が整わず、ジレンマが生じる可能性がある。人手不足の対策については、来年度以降、幅広い視野で解決の糸口を見つけていく必要があると感じた。

### 事務局（川部課長）

- 79,000円の消費額については、国や旅行者によって消費額は異なるため、あくまで平均値であるということをご承知願いたい。特に高額消費者をターゲットにした取り組みを進めており、欧米豪の旅行者はより高額な消費をする可能性が高いと考えられる。

- 数値目標としては、平均として令和5年の1.1倍で整理した。結果的には消費額が高くなったと言われるような取り組みを目指していきたい。
- 人手不足については、宿泊業界に限らず飲食業界でも問題があることを認識しており、観光分野だけでなく、経済商工観光部全体で対応していく。いただいた意見を踏まえ、今後しっかり対応していく。

#### ～議事2についての意見等～

(議事2についての意見は無し)

※以下、議事1についての質問や意見等

#### 東海林委員

- 目標値が示されている中で、具体的にどのように進めていくのか、その流れを教えてください。例えば第7期のような具体的なスケジュールがあるのか。
- 宮城県の方針が決まった後、その情報がどのように流れていくのか。具体的に観光協会などの現場にどのように伝わるのか。市町村を通じて観光協会に情報が伝達され、協力して進めていく流れになるのか。
- 今後の具体化に向けた広がり方などについて、詳細を教えてください。

#### 事務局（川部課長）

- 今後3年間の計画期間において、毎年度実施する事業や実績の数値を整理し、進捗状況を逐次共有するような流れで進めていきたい。
- 進捗状況は、これまで通り会議や様々な場でお示しし、共有したい。
- 最終案は、観光振興会議や観光産業審議会、議会にお諮りの上、3月末までに最終決定する。決定後は、広く周知し、今後のプランを共有していく。

#### 島谷委員

- プラン策定趣旨に「行政機関、観光事業者、住民、観光客などが一体となって、総参加による魅力あふれる観光地づくりを推進」とあるが、観光客も一体となって推進するという表し方について若干違和感を覚える。観光客には、宮城県および訪問した地域を応援しようという思いをもっといだけるようになっていくことが大事と考える。
- 資料3のプラン本編の体裁について、使用しているフォントに読みづらさを感じる。また、「宮城県」、「県」、「当県」など表記等も統一していただきたい。
- 第6期プランは皆が一枚岩となって取り組んでいくものであるため、今後の会議では費用対効果を提示していただくことが大事と考える。ご検討いただきたい。

#### 事務局（川部課長）

- 観光客の話につきましては、おっしゃる通り、最初から一緒というより宮城県を旅行先の一番目にあげてもらい、観光客の方からしっかり応援してもらえるように取り組んでいきたい。
- おっしゃっていただいたフォントについては、工夫できるか検討させていただき、最終的な構成の段階で調整をさせていただければと思う。
- 費用対効果の話についても、御意見を多くいただいており、他の圏域会議でも同様な御意見をいただいている。数値目標の達成だけではなく、いくら費用をかけて達成したかという視点は大変重要だと思う。今後、宿泊税を導入し、宿泊税の充当政策の評価というのも当然必要になってくる。これまでの予算で実施する事業についても、おそらく同じような評価や検証が求められると思う。どこまでできるかなかなか難しい

部分はあるが、そういったところも含めて皆さんと共有し、数値等の議論をしていただけるような準備を今後しっかりしていきたいと考えている。

#### 富谷委員

○宿泊者数の伸びと消費額単価の伸びについて、そこにどういう考えがあつてのことなのかと思った。日本人の観光消費額単価の数値目標はもっと伸びてもいいのではないかと思う。人件費の高騰等の話や旅行単価の上昇、物価上昇等の状況も考えると現状の1.1倍というのは低いのではないかと感じる。

#### 佐藤座長

○宿泊者数と観光単価の倍率から、もっと伸びるのではないかというご指摘については、2つの要素が素直にピタッとは連携しないところはあるが、数字としては、宿泊者数が6%ぐらい伸びるだろうということ。ただ、いろいろ物価高とか円安の背景もあって、特に日本人の単価はそこまで伸びないだろうということで1.1倍ということで御理解をしていただきたい。

#### 大宮司委員

○数値目標の根拠について、文章等の後ろについている文言の説明や用語解説のように、出典先を入れていただくと良いと思った。

#### 佐藤座長

○資料4を例にすると、各数値目標のタイトルの脇に出典先の記載がある。ただ、わかりにくい、見えづらいという点があるかと思うので、事務局にもう一工夫していただければとの意見で賜る。

#### 大宮司委員

○データの出典先のQRを入れるなど、数値に興味を持った方がすぐ見られるようにしていただくのもいいのではないか。

#### 事務局（川部課長）

○ご意見を踏まえて、工夫させていただければと思う。

#### 西條委員

○第6期観光振興プランのパブリックコメントについて、件数とその内容の公表予定について聞きたい。  
○宿泊事業者部会設置に関する進捗状況を教えていただきたい。

#### 事務局（川部課長）

○パブリックコメントについては、11月の下旬から12月下旬まで一ヶ月間募集し、9件の意見があった。今後、県の考え方を付記した上で公表をさせていただく予定。  
○宿泊事業者部会については、現在、圏域毎に作る方向で各地方振興事務所とやり取りをしており、具体的な設置要項の策定やメンバーの選定等を調整している段階である。部会の開催時期は圏域ごとに多少ずれるだろうが、年度内に部会を設置する準備をしている状況である。

#### 早坂委員

○東京の信用金庫では、奥州街道の宿場町を全部網羅したスタンプラリーのような企画

をしているとのこと。希望があれば、観光振興に向けて信用金庫との意見交換会のような場もつなげることが可能である。

- スタンプラリーのように、目的地に行っただけで終わりではもったいない。そこから周辺に周遊してもらうために、具体的な周遊プランが掲載されたチラシの必要性もある。また、周遊促進のためオンデマンドタクシーの利用等、新たな投資が必要ないパーツもあるので、市町村単位でも活用出来るのではないかと思う。

#### 佐藤座長

- 我々も市町村もそうであるが、信用金庫さん等も含め、色々な民間の方々と連携を図れるところは連携し、また、二次交通についても皆様ともやっていきたいと思っているので、ぜひ宜しくお願いしたい。

#### 林委員

- 今までの意見は、だいたい網羅されている中身になっていると思う。
- 令和9年度、県全体で1,104万人泊という目標数値やインバウンド増加の目標数値を見ると、人口が減少する日本の現状から見ても、伸びのほとんどがインバウンドに当たっているのではないかと考えており、そのためにはインバウンドを呼び込むための政策が中心になってくるのではないかと感じた。
- インバウンドを増やすのであれば、それに対応したアクションが必要。案内等の多言語化や二次交通も含め、今後の政策の中にしっかり反映し、具体的な方策とターゲット国を決めることが重要である。
- 観光コンテンツの見せ方について、まず広く、しっかり県民に情報発信をしながら色々な手段で海外の方々にも知っていただくことが必要だと思う。
- 大きな課題である人材不足について、これに対応するのはやはり外国人であり、宿泊業界は、すでに外国人採用を積極的に取り組んでいる。県からのそういう方面の支援も期待している。
- これまでの議論で出た様々な意見を活かし、それが形になるよう具体的な意見をなるべく多く入れた実施計画にしてもらいたい。